

2026 年度

(令和 8 年度)

施政方針

2026 年 2 月

安芸高田市

目 次

1. はじめに	1
2. 基本姿勢	2
3. 主な事業	3
(1) 対話による改革	3
(2) 暮らしやすい“あったかい”まちづくり	3
(3) すくすく子育てとまなび	5
(4) ぬくもりのふくしとシニアの底力	6
(5) がんばる産業はまちの原動力	7
4. おわりに	9

1. はじめに

市政運営に関する所信と2026年度当初予算における主要施策の概要について説明します。

昨年は、行財政改革の一環として、郵便局の利活用推進の実証事業を行いました。今年は、この取り組みをさらに発展させ、市民サービスの維持と向上に努めていきたいと考えています。

併せて、これからも安心して暮らし続けられる地域であることを目的として、地域拠点機能の強化のため、支所と文化センターの機能の見直しを図ります。地域の実情を踏まえ、持続可能な行政体制を構築するためには、行政組織のスリム化は避けては通れない課題であり、より効率的な体制を整えます。「誰ひとり置きざりにしない」という理念を重視し、一人一人に寄り添うサービスの提供体制を実現します。

また、懸案となっていた吉田地区認定こども園の整備と中学校統合については、それぞれ方向性を示すことができました。

吉田地区認定こども園は、2029年4月の開園に向けて建設地を選定し、運営法人を決定することができました。

中学校統合は、対話集会でお聞きした意見を基に「1校に統合し吉田町に新設」という統合方針を決定しました。この間、丁寧に対話を重ねてきたことが、これらの課題整理につながったものと認識しています。

本市が誇る地域資源の神楽は、「EXPO2025 大阪・関西万博」に出演したことで、認知度がこれまで以上に向上したと捉えています。関西圏での公演を継続し、「安芸高田神楽」の魅力を発信していきます。

2. 基本姿勢

それでは、基本姿勢について説明します。

基本姿勢は、「まとめる」、「あったか」、「やりぬく」です。この3つの基本姿勢のもと、5つのビジョン「対話による改革」、「暮らしやすい“あったかい”まちづくり」、「すくすく子育てとまなび」、「ぬくもりのふくしとシニアの底力」、「がんばる産業はまちの原動力」を柱に行財政運営を進めます。

2026年度は、市民の利便性の向上と行政のデジタル化を推進するため、DXを担う組織体制を整え、業務の見直しと改革を進めます。専門人材の確保と育成を強化し、継続的にDXを推進できる環境を構築します。

これまでもお伝えしてきたとおり、財政状況は依然として厳しく、限られた財源を有効に活用する工夫が必要です。既存の枠にとらわれることなく、行財政改革を常に意識し、持続可能な自治体運営を目指します。

全体最適を重視した事務事業の見直しや「公共施設等総合管理計画」に基づく費用の抑制などにも取り組みます。また、インフラの整備は、維持管理や更新を計画的に実施します。

市の未来を描く「第3次総合計画」が本格的に動き出します。子育て支援、教育、医療、福祉、産業振興など、将来世代につながる施策を進めていきます。

3. 主な事業

続いて、5つのビジョンの実現に向けて、2026年度の主な事業を説明します。

(1) 対話による改革

1点目は、対話による改革です。

就任以来「対話からの前進」を市政運営の柱として掲げ、「対話集会」を実施してきました。引き続きテーマ別の対話集会を積極的に開催し、市民の皆さまのさまざまな意見や提案の声に耳を傾けながら市政の課題解決に取り組めます。

(2) 暮らしやすい“あったかい”まちづくり

2点目は、暮らしやすい“あったかい”まちづくりです。

協働のまちづくりを地域と一丸となって具現化していくため、各町に集落支援員を配置し、市民からの相談体制の充実を図ります。集落支援員は、集落の巡回や状況把握、地域振興組織の活動なども包括的に支援する役割を担います。

また、新たに実施する生活支援体制整備事業により、生活支援コーディネーターを配置し、地域の支え合いを推進します。

広島県と安芸高田市が一体となり、県の専門的な伴走支援を受け、首都圏等の県外から本市への定住と回帰を促すため、独自施策を構築する「県・市町一体型プロジェクト」を推進します。このプロジェクトは県内

から選定された自治体が、人口流出の抑制と転入者の増加を目指し、持続可能な地域づくりを実現するための取り組みです。

公共交通再編は、市民の皆さまからのご意見などを踏まえ、開始時期を2026年4月から2026年10月に延期します。乗り継ぎ負担の軽減策として、お太助ワゴン直通便の導入など、改めて議論する方針です。

カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みとして、「地球温暖化対策実行計画区域施策編」を踏まえ、今後、温室効果ガス削減の具体的な施策を展開する計画です。加えて、地域住民と事業者との調和を図ることを目的として、太陽光発電設備規制に関する条例制定を進めます。

現行のお太助フォンが更新期限を迎えることに伴い、利用者が受信端末を選択できる新たなサービスへと移行します。この新たなサービスを活用し、災害時における防災緊急情報を迅速かつ確実に伝達するための仕組みを再構築し、市民の皆さまへの情報伝達力の向上を図ります。また、消防指令システムとの連携が可能となることから、消防車の出動情報や林野火災注意報などの情報配信も行う方針です。

防災減災対策として、「江の川流域水害対策計画」に基づき、雨水貯留浸透施設の基本設計を作成し、豪雨による内水被害への対策に取り組めます。

サンフレッチェ広島が計画する中学生と高校生の新たな活動拠点の整備を進める「アカデミー強化プラン」を全面的に支援し、将来を担う人材育成とさらなる連携強化を図ります。また、全試合のパブリックビューイングやホームゲームを毎試合観戦できる機会の創出を通じて、市民が一

体となった応援環境を継続します。

安芸高田わくながハンドボールクラブは、長年、市民に勇気と感動を与え続けてきました。市が強力にバックアップを行い、トップアスリートとの交流の場を提供し、スポーツによる地域活力の向上を推進します。

情報発信力の強化に向けて、副業型の地域活性化起業人を活用します。外部の専門人材が持つ SNS の運営や動画編集に関するノウハウを取り入れ、地域の魅力発信をより効果的に進めます。

(3) すくすく子育てとまなび

3点目は、すくすく子育てとまなびです。

めざす子ども像を「自ら考え自律する子ども」とし、「未来に生きる力を高める」安芸高田協育を推進します。

子どもたちにとって、より良い教育環境を整備する目的で中学校統合を推進します。併せて、敷地の一部が土砂災害特別警戒区域に含まれている吉田小学校を移転し、新設する統合中学校の施設と合築することで、整備コストの縮減を図ります。

中学校では、次世代リーダー育成海外短期留学事業を見直し、全生徒を対象に AI を活用した英会話システムを導入します。主体的な学びや個別最適な学びを推進するとともに、生徒の英語の発話時間を増やし、英語力の向上に取り組みます。

不登校の児童生徒に対する支援も強化します。第 3 の居場所、サードプレイスとなる教育支援センターの機能拡充やサテライト運営、市内外

の民間フリースクール等との連携強化を図ります。そのため、新たに地域おこし協力隊を募集し活用する計画です。

また、向原小学校の老朽化対策として、外壁補修による防災機能の強化や断熱対策と照明器具の LED 化といった省エネ対策などに着手し、教育環境の改善を図ります。

子どもたちの安全安心な保育環境を確保するため、吉田地区認定こども園整備を推進します。施設の建設基盤となる用地の造成工事を開始し、早期完成に向けて着実に取り組みます。

懸案だった旧田んぼアート公園予定地の利活用については、市民の皆さまからいただいたご意見なども参考に子どもたちが安心して遊ぶことができる防災機能を備えた公園として整備していきます。2026 年度は官民連携による整備の可能性を探る国庫補助事業にエントリーし、どのような方法で事業推進するか検討を進めます。

次代を担う子どもたちが、夢と希望を持って健やかに育つことができるまちづくりを推進するため、子どもの意見を尊重した「子どもの権利条例」の制定に取り組みます。

(4) ぬくもりのふくしとシニアの底力

4 点目は、ぬくもりのふくしとシニアの底力です。

生活支援体制整備事業により、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自立した生活を継続できるよう、地域包括ケアの深化を図ります。地域の多様な人材や団体が連携し、高齢者の生活支援サービスを提供する体制

づくりと地域における支え合いの仕組みを推進します。

介護人材不足が深刻化する中、将来にわたって高齢者を支えていくには、地域の力を最大限生かす仕組みづくりと介護 DX の推進は重要な課題です。介護現場における ICT や介護ロボット導入支援、地域包括支援センターの介護システムの導入、国が推進する介護情報基盤整備に向けた取り組みも進めます。

本市の医療体制の中核を担う JA 吉田総合病院は、休日や夜間の救急患者受入体制を備え、へき地医療拠点病院として地域の医療を支えています。この機能を安定的に継続できるよう支援し、市医師会、歯科医師会等とも連携して、地域に必要な医療を確保します。

近年、口の衰え、いわゆるオーラルフレイルが全身のフレイルの入り口になることが明確になってきています。フレイル予防の柱の一つとして、歯科保健事業を強化します。総合健診の一部に歯科検診を取り入れ、加えて、歯科衛生士を配置し、健康教室等に出向いて、正しい口腔ケアについて普及啓発するなど、歯と口の健康づくりを推進します。

また、特定保健指導の実施率向上を図り、生活習慣病の予防を推進します。特定保健指導を健診業務と合わせて委託し実施することで、健診当日の保健指導が可能となり、対象となる方の早期の生活習慣改善につながります。

(5) がんばる産業はまちの原動力

5 点目は、**がんばる産業はまちの原動力**です。

エネルギー価格をはじめとする物価高騰等、相次ぐ経済状況の変動により、地元事業者にとって事業継続の困難さが増しています。新たな創業者は、大変貴重な存在であり、商工業振興の重要な要素になると認識しています。今後も、創業や事業継続などへの支援を継続します。

農業については、農業経営の早期安定化に必要な機械と施設の導入費用に対して補助金を新設し、新規就農者を支援します。また、耕種農家と畜産農家の連携による家畜排泄物の有効利用と化学肥料の使用量の削減を進めるため、堆肥購入費用に対して支援を開始し、自給飼料の生産拡大を図ります。

道の駅などの主要観光施設については、持続的に運営できる体制づくりの検討を進めます。老朽化が進んでいる観光施設では、設備の改修や更新を検討します。事業内容の見直しや効率化を進め、施設の質とサービス水準の維持を図ります。

また、観光行政の指針となる「観光振興計画」を策定します。この計画は観光振興だけでなく、観光施設マネジメントも方針に加えます。

ふるさと納税制度を活用し、安定的な財源確保と地域活性化を推進します。市の魅力ある資源を再発掘し、市内外へ発信することで、市のブランドイメージ向上と「安芸高田市ファン」の拡大を図ると同時に、地場産品の販路開拓と市内事業者の産業振興につなげます。

公共施設やイベント等の呼称を命名する権利者、いわゆるネーミングライツパートナーを継続して、民間企業等から募集します。新たな自主財源を確保し、施設の適切な維持管理やイベントの質的向上を図り、パートナー企業との連携による地域の活性化を推進します。

4. おわりに

2026年度予算編成の提案にあたり、所信の一端を申し述べました。

人口減少が今後も続くと思込まれる現状の中で、持続可能な自治体運営のためには、行政組織の効率化は避けて通れません。市民の皆さまに安心してこのまちで暮らし続けていただくためには、市民サービスの維持も重要です。

そのため、行政組織の効率化と市民の利便性の向上を同時に実現するための打ち手として、郵便局への行政事務の委託、集落支援員の配置、DXの推進をセットで進めます。

郵便局に支所で行う行政事務を担っていただく一方で、支所に集落支援員を配置し、市民の皆さまからの相談対応を充実し、地域の「拠りどころ（寄りどころ）」の機能を充実させます。

併せて、全庁的にDXを推進するための体制を整え、行政事務の効率化を進めるとともに、市民の利便性の向上も進めていきます。

2026年度は、今後も皆さまが安心して暮らし続けていただける安芸高田市にしていくための改革を始める年になると考えています。

職員と一丸となって、新しいまちづくりを推進していきます。市民の皆さまにはご理解とご協力をお願いします。